

令和6年3月1日
三重県政策企画部
人口減少対策課

人口減少対策広域コーディネーター業務の取組状況（令和6年1月末現在）

1 事業目的

三重県の人口減少が加速している中、特にその減少幅が著しい南部地域において、効果的な人口減少対策に取り組むためには、地域に潜在する課題及びニーズを抽出するとともに、地域の実情に応じた社会減対策を分野横断的かつ広域的に対応する必要がある。

そこで人口減少対策広域コーディネーター（以下、「コーディネーター」という。）を設置し、地域の活動により近いところで市町や関係者をつながりながら、情報の収集や連携を強化するとともに、抽出した課題等をふまえ、今後南部地域にとって効果的と考える具体的な対応や現行取組の改善等を行う。

2 コーディネーターの設置状況

令和5年5月25日に南勢志摩地域担当として2名、紀北地域担当として1名、紀南地域担当として1名を設置した。

3 コーディネーター業務の概要

- (1) 地域の課題抽出に向けたヒアリングの実施
- (2) 地域の課題抽出に向けたワークショップの開催
- (3) 上記をふまえた県への事業提案、業務の改善提案
- (4) 地域人材のネットワーク・広域連携の強化
分野別や地域別の交流会等の適宜開催
- (5) 移住の促進
複数の市町または南部地域として移住相談会やセミナーに参加し、情報発信
- (6) その他、南部地域の人口減少対策につながる業務

4 取組状況

- (1) ヒアリング
[対象] 定住者、Uターンした人、移住者で5年以上地域に定住している人等
[回数] 145件
- (2) ワークショップ
①各市町共通のワークショップ 9回
→実施手法：
 - ・ヒアリングで聞かれた声の検証
 - ・生活状況等を把握するフィールドワーク
 - ・各市町住民の生活圏のマッピング

②テーマ型ワークショップ 2回

- ・令和5年12月8日：限界集落の維持（熊野市）
- ・令和6年1月15日：地域おこし協力隊連携強化（尾鷲市＋オンライン）
→実施手法：ヒアリングや共通ワークショップで出てきた南部地域で共通する課題についてのグループワークを実施

(3) 地域人材のネットワーク・広域連携の強化

① 地域おこし協力隊の交流会 2回実施

- ・令和5年6月23日（玉城町）
- ・令和5年8月23日（松阪市飯高町）

(4) 移住促進

- ・令和5年10月7日 移住・交流セミナーで「三重県の知られざる「まち」と「仕事」～簡易郵便局長という暮らし方～」をテーマに三重での暮らしをPR（名古屋）
- ・令和5年11月12日 東紀州地域の移住受入態勢の連携を図るため、すでに連携が取れている伊勢志摩地域の取組を11月12日開催の移住フェアを通じて東紀州地域の市町と確認するとともに、情報を共有（大阪）

(5) その他

① ワークーション受入団体との意見交換

- ・令和5年12月12日 紀北地域のワークーション受入団体との意見交換、現状把握（尾鷲市）

5 事業提案（予定）

(1) 地域おこし協力隊の定住に向けたパッケージによる支援（令和6年度予算要求中）

① 提案内容

三重県の地域おこし協力隊の定住率が全国ワースト3位（全国平均65%、三重県54%）となっている状況から、現在任意団体として活動している「三重県地域おこし協力隊ネットワーク」をベースとして多様な地域人材が参画する支援体制を構築し、三重県の地域おこし協力隊の募集から活動、定住支援に至るまでの支援をパッケージ化して提供する仕組みを提案。

② 提案に至った主な住民の意見・コーディネーターの所感

- ・地域に移住する人々のニーズと地域の特性を適切にマッチングさせることが重要である。
- ・募集段階における市町と地域の認識の違いがあるなど、ミッションに取りかかる際にギャップを感じた。
- ・隊員OB・OGの経験や知見がその後のミッション形成や募集活動、受け入れ体制の構築に十分に活かされていないことがある。

(2) 地域間の情報・課題共有や連携等促進のための Web サイトの構築（令和 6 年度
予算要求中）

① 提案内容

多様な地域性を有する南部地域において、各種の人口減少対策を進めていくためには、地域間の行政担当者や地域人材が地域課題と解決に向けた方向性を共有し協働したうえ、連携を促進することが望ましい。今年度のヒアリング調査やワークショップ等を通じて抽出された課題のほか、各地の地域人材の活動内容や活動圏等をデータベース化し、地域間で情報共有するための Web サイトを構築することを提案。この Web サイトの活用を通じて、南部地域出身者の U ターン促進や関係人口拡大など、次世代の地域人材の創出につなげていきたい。

② 提案に至った主な住民の意見・コーディネーターの所感

- ・地域毎の課題や生活上のデータが見える化することで、課題解決につなげたり、地域間で必要な情報を共有できるのではないか。
- ・地域の困りごとが外向きに発信できれば、都市圏の人と連携できることがあるかもしれないと考えているが、都市部で暮らす人と地域の人をつなぐハブのような窓口・団体がない。
- ・保育園、習い事等、地域の情報がないため、どこへ行ったらいいかわからない。地域のことをあまり知らない。
- ・地域での新たな繋がりをつくっていく際に、それをサポートできる機関やコミュニティなどがあると良いのではないか。
- ・進学で地域を出ても、地域の情報が把握できるなど三重とつながりを持ち続けたい。

(3) 移住促進に関わる広域連携の持続的な体制づくり

① 提案内容

南勢志摩地域等の市町では、「伊勢志摩定住自立圏」の活動の一環で移住の受入れを連携して取り組んでいる。こうした取組は、移住の促進に向けて単独市町が取り組むより有効であることから、南勢志摩地域等における連携体制の持続化と、現状各市町がそれぞれ単独で活動している東紀州地域においても、こうした広域連携がとれるように提案。

② 提案に至った主な住民の意見・コーディネーターの所感

- ・認知度の低い市町にとって、単独市町での移住 PR は弱い。
- ・住居と働く場所、日常の生活圏が同一市町で収まるとは限らないため、広域での受入れることができれば、取りこぼしが少なくなるのではないか。
- ・紀北町から紀宝町までが、一体となって取り組むことで効果が出るものもあるのではないか。

(4) 求人・求職のミスマッチ解消に向けた対策

① 提案内容

事業者側からの視点では人手不足である一方、仕事を探す人側からは地域に仕事がないというギャップ、また地域にある短時間労働や副業といったニーズへの対応が必要である。求人情報の効果的な発信や、働き方などの雇用条件の見直し等、地域の求人・求職のミスマッチ解消に向けた支援が必要であることを提案。

② 提案に至った主な住民の意見・コーディネーターの所感

- ・ 人手不足。でもハローワークでの登録に手間がかかるし、仮に登録しても応募がほとんどないから、ハローワークに行くに至らない。
- ・ 仕事を探しているが、どこに求人情報があるかわからない。
- ・ 子育てをしているため、正規職員としては働きづらい。短時間の求人情報を提供してもらえると、都会でいう「Timee」のようなものがあって欲しい。
- ・ 客観的に見て地域で食べていける仕事はあるのに、それが知られていないのが問題だ。

【参考】その他の主な意見

1 仕事

- ・起業（ベンチャー）支援を手厚くしてほしい。
- ・公務員になることができなければ、地域外へ出る。
- ・仕事探しに苦勞する。特に IT 関係の仕事が見つかりにくい。
- ・仕事はハローワークを利用せず、知り合いから紹介してもらおう。
- ・給料が低いのがネック。副業等で様々な仕事につければいいかもしれないが。
- ・周りに副業をしている人が結構いる。都会と比べ、自由に使える時間が多い。都会と比べて生活費がかからない。都会より夢を実現しやすい。
- ・農業の大規模生産化を国は進めているが、土地の形状等、地域の特性上できない。
- ・住んでいる地域で飲食店を出店するのはほぼ不可能と思う。理由は浄化槽が整っていないから。

2 地域コミュニティ

- ・地域コミュニティはとても大切。友人がいなければ地域から出ていたと思う。
- ・地域のコミュニティに行くことをきっかけに、仕事が見つかった。
- ・地域への定着については、地域のキーパーソンを見つけて、人と繋がっていくことが大切。
- ・地域に集える場所があったことがすごくよかった。そこに行けば、地域の人だけでなく、地域外の人にもあえて、刺激があった。
- ・地域のコミュニティがしっかりしている。
- ・移住者はコミュニティに入るきっかけが少ない、あっても知られていない。
- ・自分が住んでいるところはボランティア活動が盛んだ。

3 交通

- ・バス料金がめっちゃ高い。本数が少ない。
- ・交通事情の関係で高校の時に部活ができなかった。
- ・車が乗れる今はいいが、免許返納後など車が乗れなくなったらたちまち生活ができない。
- ・鉄道の本数が少なすぎる。鉄道の時間に合わせた生活スタイルとなってしまう。
- ・コミュニティバスは便利でよく利用するし、良いと思うが、知らない人も多い。
- ・将来子どもの通学を考えると交通事情等のインフラは住む条件にとって重要な要素。
- ・駅を降りてもタクシーがない。

4 病院

- ・総合病院がない。産婦人科がない。町医者で住む程度の病気ならいい。でも、悪い評判の医者だった場合、他の選択肢がない。

- ・特殊・高度な医療が受けられないため、大きな病気になった場合は地域外まで行かないといけない。
- ・町立病院の小児科に限られた日にしか開いておらず、予約が満員で診察を受けられないことがある。
- ・車があるから今は問題なく生活ができる。しかし、老後は病院がないことを理由に外に出るかもしれない。

5 賑わい

- ・チェーン店にあこがれるのに、住んでいる地域に店がない。子ども向けの店がない。
- ・駅前でも夜遅くまでやっている店がない。都会の若者のようにオールしたい。
- ・商業施設や娯楽がない。遊びに行く場所がない。(イオン津南等まで行く)
- ・コンサートに行きたい。でも行くのに不便。
- ・鳥羽の離島では、ハローで買い物をすると無料で荷物を送ってくれるそうで、いいなと思った。

6 子育て

- ・習い事のため、隣の市に行っている。教育が充実していないと感じる。
- ・通える高校の選択肢が少ない。また大学は下宿になり、仕送り等での負担が大きすぎて、義務教育終了後は地方と都市部の格差を感じる。
- ・小学校にいる間は良いが、地域には高校までしかないため、大学進学時に引越す可能性がある。
- ・実家の支援以外にも手軽に利用できる公的支援(できれば無料)があるとよい。
- ・子育て世代が住みやすい賃貸住宅がほしい。
- ・子育て世代が集まるコミュニティが少ない(知らない)。
- ・今の子育て支援がありがたい。子育て世代になったら帰ってきたいと思っている。
- ・子育ての環境という観点であまり望ましくない場合、他の地域に移るかもしれない。

7 地元の良いところ

- ・魚がおいしい。都会のスーパーで買った魚がまずくて捨てた。
- ・海が近くにあることの素晴らしさが地域外に出て改めて感じた。
- ・地域を出て初めて地域の良さを実感した。そういう人は多いと思う。
- ・都会にはたくさんの方がいるが、つながりがないから結局のところさみしい。
- ・保育所の待機児童がないことがよかった。都会ではありえない。
- ・都会ではできない地方暮らしを満喫している。
- ・渋滞が少なく、交通・生活機能がコンパクトに集約されているため、日常生活において便利。

8 その他地域の事情

- 地域の伝統が自分の誇り。みんなそう思っていると思うが、逆に新しいことにチャレンジすることを好ましく思わない風潮がある。
- 田舎特有の「人と同じようにしないといけない」感じがある。
- 子育て世代はマイノリティ、高齢者はマジョリティ。
- 災害への不安はある。家がなくなれば出ていく。
- いったん都会へ行った人が戻ってくることに都落ちといった感覚があり、戻ることには抵抗があると思われる。戻っても引きこもっている人がいる。
- 地域の魅力を若い世代に伝えるためのデザインや情報発信が不十分。
- 現在の生活の不満点は、日曜日に動員される地域活動が煩わしいことと収入の額である。
- 都会に比べて閉鎖的。何かあればうわさが地域内へすぐに広まっていくため、プライベートが確保されていない。
- 自治会のアップデートは必要と感じる。無駄が多く、LINE等のデジタル技術を活用すれば、もっと簡素化できると思う。
- 近隣の高齢化に伴い、買い物支援等の個人サポートに限界がくると思う。